

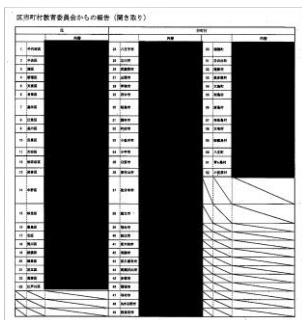
## 様々な問題点を解決しなければ入試には使えません！

東京都教育委員会(都教委)は、何を聞いても「結果に影響を与えるようなトラブルはなかった」を繰り返し、**詳しい実施状況調査をやらうともしませんでした**。公平・公正・厳正な試験と採点ができたのか。そして専門家からも指摘された多くの問題点にきちんと応えるのが都教委の役目です。

その後、**都教委が自治体とのやりとりをした内容**が、都民の開示請求で出てきましたが、全て黒塗りの「のり弁」状態でした。

小池都知事は、「情報開示が都政の1丁目1番地」と言って当選した知事ですよね???

のり弁状態の開示文書の画像



吉田弘幸氏開示請求資料より

都教委にとって都合の悪い報告のあったことをうかがわせます

今年度、英語スピーキングテストを到達度テストとして、中学1年生、2年生にも拡大します(1月~3月実施)。全体の予算は35億円に膨らんでいます。そのお金を少人数学級のために使う方が、生徒の会話力をつけるのに、もともっと役立ちます。

◎都議会への請願署名にご協力をお願いします。(8/26まで)  
請願署名の送り先：〒102-0084 千代田区二番町12-1 エデュカス東京5階 東京教育連絡会

◎ネット署名もお願いします(東京都教育委員会宛)  
<https://www.change.org/StopESAT-J>



都立高校入試へのスピーキングテスト導入の中止を求める会  
連絡先: stoptokyospeakingtests@gmail.com

# 都立高校入試に導入された ESAT-J 英語スピーキングテスト

SNS アンケートに寄せられた声

## これでも入試へ「活用」はあり?

昨年11月27日(日)のスピーキングテスト本番で、こんなことが起きていたのに入試への活用を強行しました。ご存じでしたか?

受験生は前半と後半に分けられ、前半組と後半組の部屋が隣り合っている会場もあり、後半組の生徒に前半組の声が聞こえて来ました。

92件(46会場)

イヤーマフ越しに他の受験生の解答音声がかえりました。

他の人の声  
聞こえた!

166件(78会場)

最初の録音確認の際、周りの人の声か録音されていました。

問題漏れ  
ていた!

前半終了後、トイレ・廊下で問題が流出という訴えもありました。

55件(35会場)

他人の声が録音  
されていた!

受験生「教育長と話したい」

2022年12月18日付東京新聞1面トップ見出し

これがスピーキン  
グテストのアイテム

タブレット



イヤーマフ

イヤホンマイク

SNS アンケートには**478件**もの声か寄せられ、内**6割**は受験生本人からです。都教委は、「解答に影響はなかった」として詳しい調査もせずにか強行しました。

# 都立高校入試への スピーキングテスト結果を 入試に使うのは やめてください！

何が問題なの？

## ご存じですか？

昨年度の中学3年生から都立高校入試で、英語スピーキングテストの結果が合否判断に「活用」されました。専門家、英語教員、保護者などが多くの問題点を指摘。しかし都教委はスピーキングテストを強行しました。

## 願書締切り前日に突然「採点ミス」発表。ミスはこれだけ？

願書提出締切前日(2/6)に都教委は、スピーキングテストで8人の採点ミスが分かり、修正したと発表。「一定の機械音のみが録音され、解答音声を確認できない箇所をバックアップファイルで採点し直した」としています。どうして採点時に分からなかったのか、1週間くらいで約7万5千人をどうやって総点検したのか、他に採点ミスはなかったのか等々、次々と疑念が生まれていました。

## 8万人もの中学3年生の公平で厳正な採点はできたのか疑問

都はベネッセと協定を結び、ベネッセはフィリピンの組織(詳細は不明)に委託し、45日間で採点し、1月中旬に結果を返却してきました。

採点者は、「英語教育の専門性を有する者で専任」などとしていますが、何人がどんな採点方法で、微妙な評価のすり合わせはどのように等、採点に関わることはいっさい明らかにされていません。

## 入試にふさわしくない「換算得点」

スピーキングテスト(ESAT-J)は100点満点で採点された後、右のように、換算されます。100点と65点の35点差でも、65点と64点の1点差でも換算点の差は4点です。1点差で合否判定される入試にはふさわしくありません。

得点域	ESAT-J 段階	換算得点
100～80	A	20
79～65	B	16
64～50	C	12

## 「中学校の範囲」としていたのに 「高校の範囲」を出題

「相手に意味が分かるように英語で話さない」という出題で、「may have seen」という高校生が習う構文が出題されました。都教委は、「may も have も seen も既習だから問題ない」としており、今後もこういう出題はあるということです。

## 本試験と追試験の難易度は同じ？明確な答弁無し

追・再試験(12/18)の平均点は、本試験(11/27)より8.61下がりました。両試験はその難易度等が同じでなければ、得点を単純に比較できません。テストの難易度等を同じにすることを「等化」と言います。「等化していたのか」を都議会で追及された時、都教委は「質問の趣旨が分かりかねる」などとはぐらかし、明確な答弁をしませんでした。

## 居住地域や家庭の経済格差が得点格差に

スピーキングテスト ESAT-J にそっくりの、ベネッセスピーキングテスト GTEC があります。昨年9自治体が公費で購入し生徒が練習しています。こうした教材や塾などで対策した方が有利という懸念があります。家庭の経済格差が得点格差となったり、ベネッセの利益につながるようなテストをすべきではありません。



## 機械ではなく人間とのやりとりでこそ会話力はつきます

スピーキングテストが入試に直結することによって、普段の授業で文法や発音の間違いを生徒が意識するようになります。文法や発音を気にせずに、人間とのやりとりを増やすことの方が、英会話の力をつけることができます。

個人情報(顔写真含む)をベネッセに登録しないとこの試験を受けられないのもおかしいです。